

令和元年度 第4回 学校運営協議会 議事録

日時 令和2年3月18日(水) 14:00~15:45

場所 本校会議室

委員の出席状況: 8名出席(欠席: 谷田部委員、齋藤委員)

1. 開会 進行: 事務局(教頭) 14:00~

新型コロナウイルス感染対策のため、マスク着用、室内の換気を実施

2. 会長挨拶 (若園会長より)

- ・来年度の入学生が増加
- ・卒業式・入学式も難しいところがあるが、県内各地で様々な頑張りが見えている。この流れを止めないようにしていきたい。

3. 校長挨拶

- ・参会とこれまでの活発な意見交換への謝意と本日への期待

4. 議事 進行: 若園会長 14:01~

(1) 報告 新型コロナウイルス感染対策として内容手短に

①今年度の取組状況について(校長)

資料1 協議会意見に基づく学校の魅力化・特色化の取組状況について

- ・新聞掲載・なか TVでの取り上げ増加
- ・今年度も就職率100%を達成することができた。また、久しぶりに公立大学・公務員に合格する生徒が出たことは喜ばしい。
- ・普通科の来年度入学者(志望者)の増加 南那須4中学校から65名(67%)
これまでの活動の成果の現れではないか
- ・1回目の運営協議会であげられた要望についての県教委回答
学級定員増については、定数法上難しいとの回答
普通科の全国募集については、部活動は全国的な実績が高くないと難しいとの回答

(吉成) 入学者選抜の状況・・・水産科の県外希望者の現状はどうか

→水産科2名茨城・埼玉より下宿希望

他に県内2名が下宿希望 現在のところ今ある下宿で対応可能

②先進校視察報告（小高）

- ・岩手県立遠野高等学校（岩手県遠野市）
- ・宮崎県立飯野高等学校（宮崎県えびの市）

（別紙資料参照）

質疑応答

（若園）マイプロジェクトアワードについての補足をお願いしたい

→NPO カタリバという組織が開催している全国的な発表大会。

高校生が地域の課題に主体的に関わり、どのように実践したかを評価する競技会で、全国の上位に入賞すると慶応大学のような有名大学への推薦に必要な要件を獲得することができる権威ある大会である。

（大金市）オンライン教育がピンと来ない

→今までのオンライン教育は動画を見て一方的に講義を受けるものだったが、現在は Zoom のようなソフトを使って、双方向で教室で行っているような授業が可能。

（小川）町の支援について、町のバスを使うことが前提で考えているのか

→調査したい場所が近くとは限らない。今までは事前に町にお願いして町のバスを手配していたが、今後生徒が調査を行う時に一斉に行きたい時期が合うわけではないので、その時その時に学校側で手配できた方がありがたい。

（小川）えびの市の支援額が大きく伸びているのは何か

→魅力化プロジェクトに市職員が入っており、そこから予算が獲得されている

（大金浩）クラウドファンディングについて…教員や県がクラウドファンディングにどのように関わっているのか

→この外部団体の代表者はあくまでも生徒や卒業生であり、教員は顧問として生徒にアドバイスをしている存在で報償を得ているわけではないので、問題はないかと思われる。

（2）協議 14：45～

①学校評価について（小高・田中）

資料「学校評価 分析と課題」「令和元年度授業評価結果」

学校評価（小高）…全体的に回復傾向（ただし昨年が極端に低い）

部活動への積極的な参加と学校満足度の数値が低下

授業評価（田中）…昨年度より全体で好意的数値が上昇

昨年に引き続き、家庭学習の数値が極端に低い（＝主体性が低い）

国語については上昇している

3年生の数値が低い傾向だが、2年生の時と比較すると高くなっている。

(若園) 家庭学習の低さを改善するための具体的な取組は？

→学校側も年度当初にこの課題を共有し対処を呼びかけたり、漢字テストのための学習プリントをやらせたり、ゴールデンウィークや長期休業中に課題を出すとともに試験を実施したりなど家庭学習の習慣を付ける対応策をとっているが、なかなか効果が表れていない。

(若園) 那珂川学のような実践的な調査学習が学ぶことの意義を理解し学力向上に役立つという数字が出ている。那珂川学と教科との関わりを調査しては？

(校長) これは全県的な課題であるので皆さんのご意見をいただきたい

→(若園) 生徒が最も関心をもつものがスマホである。この機能を活用した学びもあってもいいのでは

(大金市) 単純に勉強しろというよりもスマホで学ぶことについては生徒への学びに向かうハードルは低いのではないか。金銭的な課題もあるかもしれないが、タブレットやスマホの活用は有効だろう

(小川) 小・中でやってこなかった生徒を高校でやらせるのは困難である

現実、就職をめざす生徒に家庭学習を求めるのは難しい

小学校から学習習慣を高めることをしなければ、高校で指導するのは厳しい

だからといって、やらなくてもいいというわけでもないが

→(若園) 那珂川学のような学習成果を人に教えなければいけない状況が生まれれば自然と学びに向かうのでは

(田島) ネットを活用し新しいことをやろうとすることに制限はないのか

→基本的に生徒が学校で使用することは不可。学校自体も SNS の利用はできない。

(柏木) SNS の制限は犯罪に巻き込まれやすいという面からの指導

授業での新しい活用への方針については資料が現在手元にないのでお話しすることができない

②令和 2 年度学校運営方針について (校長)

資料「令和 2 年度学校経営方針」

現在、本校の生徒が抱える課題を元に方針作成 下線部が改善箇所

次年度「6 コミュニティスクールについての留意点」を追加

(若園) 様々な関係団体との連携の計画についてはどのようなものがあるか

→那珂川学をとおして、町役場や地域の団体都との関わりができています。

この関わりをさらに深める方向で進めたい。

(若園) 様々な関係団体が集まった意見交換をする場を設定した方がよい

→地域学校協働本部を新年度に立ち上げ、意見を集約・活動に活かしたい。

(若園) 方針の2(4)にあるICTの活用はどのようなことができるか

→昨年魅力化予算で遠隔授業の仕組みは整備したが、業者との遠隔授業は予算面で難しく実施することは困難である。水産科や地域学習を行っている他校との交流を行っていききたい。

スタディフロンティア事業で予算がつくので、iPadや液晶テレビを導入する予定。そちらでもICTの活用を進めていく。

③学校の魅力化、特色化について

資料なし

(若園) 先ほど話の出た「えんたくん」を使って何をやりたいか

→協議会のような会議の場ではなかなか各自の意見を出すことが難しいので、来年度最初の協議会でお互いに何をしたいかを知るために使いたい。生徒の学習においても、生徒たちの考えを見える化することにより議論や協働力が深まることが期待される。

(若園) 新たに着任される方や若い先生の意見を知るために、使ってもよいかも知れない。多くの人の声を集約することが重要なのでこちらを活用していくことは有用である。

(吉成) 来年度の入学生の確保に向けて、どのような対策ができるか

満足度は低い、授業評価は高い。授業の評価の高さをアピールできるのではないかと。早めに公表を。

(小川) 馬高のPRの充実について

広報「なかがわ」に学校紹介が連載された効果は高いのではないかと。馬高の学校祭とホンモロコの協会でコラボ(出店)させてほしい。なかがわ学発表会は今まで馬頭中生しか見ることがなかったが、今後はケーブルテレビの生中継で小川中の生徒にも見てもらうとよいのではないかと。

(大金浩) 中高連携ということで町内の小中学校での生徒による出前講座をやってほしい。馬高のPRにつながる。

→水産科は馬小と交流教育を行ったり、今年度は小川小で研究成果を発表したりしている。

(3) その他

校長より謝意

5. 閉会 15:45

事務連絡